Ⅱ．海外経済

		7月	8月
世界経済		世界経済は失業率が高水準であるなど引き続き深刻な状況にあるが、景気刺激策の効果もあって、景気は緩やかに回復している。 先行きについては、緩やかな回復が続くと見込まれる。ただし、ヨーロッパを中心とする金融市場の変動の深刻化や、信用収縮、雇用の悪化等により、景気回復が停滞するリスクがある。	世界経済は失業率が高水準であるなど引き続き深刻な状況にあるが、景気刺激策の効果もあって、景気は緩やかに回復している。 先行きについては、緩やかな回復が続くと見込まれる。ただし、回復のテンポは更に緩やかになる可能性がある。また、信用収縮、高い失業率が継続すること等により、景気回復が停滞するリスクがある。さらに、各国の財政緊縮をはじめ財政政策のスタンスの変化による影響に留意する必要がある。
アメリカ		アメリカでは、失業率が高止まるなど下押し要因は依然としてあるものの、政策効果もあり、景気は緩やかに回復している。 先行きについては、基調としては緩やかな回復が続くと見込まれる。ただし、信用収縮や高い失業率が継続すること等により、景気回復が停滞するリスクがある。また、景況感を示す指標が低下していることには留意する必要がある。	（変更なし）
アジア地域	中国	中国では、景気刺激策の効果もあり、景気は内需を中心に拡大している。 先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、マネーサプライの急増によるリスクには留意する必要がある。	中国では、景気刺激策の効果もあり、景気は内需を中心に拡大しているが、このところ拡大テンポがやや緩やかになっている。 先行きについては、テンポは緩やかになるものの拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、不動産価格や欧米向け輸出の動向に留意する必要がある。
	インド	インドでは、景気は内需を中心に拡大している。 先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、物価上昇によるリスクには留意する必要がある。	（変更なし）
	その他アジア地域	その他アジア地域では、景気刺激策の効果や中国向け輸出の増加もあり、総じて景気は回復している。 先行きについては、引き続き中国向けの輸出が堅調に推移するとみられること等から、回復傾向が続くと見込まれる。ただし、欧米等先進国向けの輸出の低迷が続くこと等により、本格的な回復が遅れるリスクがある。	その他アジア地域では、総じて景気は回復している。 先行きについては、回復傾向が続くと見込まれる。ただし、欧米等の景気が下振れした場合には、輸出の減少等により、景気回復が停滞するリスクがある。
ヨーロッパ地域		ヨーロッパ地域では、失業率が高水準であるなど引き続き深刻な状況にあるが、景気は下げ止まっている。 先行きについては、基調としては緩やかな持ち直しに向かうと見込まれる。ただし、ギリシャ財政危機により、他のヨーロッパ諸国の財政状況やヨーロッパの金融システムに対する懸念が高まり、金融資本市場の変動が更に深刻化するリスクに留意する必要がある。また、新興国向け貸出の不良債権化による信用収縮や自動車買換え支援策の反動の広がり、雇用の悪化等により、景気が低迷を続けるリスクがある。	ヨーロッパ地域では、失業率が高水準であるなど引き続き深刻な状況にあるが、総じて景気は下げ止まっており、一部では持ち直している。 先行きについては、基調としては緩やかな持ち直しに向かうと見込まれる。ただし、金融システムに対する懸念が完全に払拭されていないこと、高い失業率が継続すること等により、景気が低迷を続けるリスクがある。また、各国の財政緊縮による影響に留意する必要がある。